
戦乙女(ワルキューレ)の舞… 1 9 4 2 東部戦線南方戦域

ミニプリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

フルキューレ
戦乙女の舞：1942東部戦線南方戦域

【Nコード】

N4693Q

【作者名】

ミニプリ

【あらすじ】

1942年5月、増加傾向にあるパイロットの損耗を押さえるべく公募された女性パイロットの第1陣として飛行学校を卒業したエルザ・カールテンベルクは、同期生のハンナ・シュナイダーと共に東部戦線南方戦域に派遣された。

設定に無理があり、尚且GLもあるので苦手な人は絶対に見ないで下さい。

着任（前書き）

またしても趣味全開で始めてしまいました。他の作品が滞っているにも関わらず始めてしまいました。

申し訳ありません m (m

着任

1942年5月3日ウクライナ・サポロジュ上空

巨大なダムに初夏の陽射しが降り注ぎ、ダム湖の湖面が煌めいていた。

鉱物と農作物の宝庫ウクライナを流れる大河ドニエプル河に面した街サポロジュ、この街の最大の特徴である水力発電所（発電量55万キロワット）と発電所の為に作られた巨大なダムの上空をドイツ空軍の識別マークが施された1機の双発機が飛行していた。

両翼に搭載されたダイムラーベンツDB-601F液冷エンジン（1350PS）が快調に唸り、双発機としては細身でコンパクトに纏められた垂直双尾翼方式の機体が滑るように蒼空を進んでいる。機首に図式化されたヴェスパ（スズメバチ）が描かれ、スピナーに蜂を模した螺旋模様が施された双発戦闘爆撃機（駆逐機）メッサーシュミットBf-110F-2のコクピットに座したエルザ・カルテンベルク少尉は、赴任地であるサポロジュの飛行場へと愛機を前進させていた。

飛行帽の隙間から除くセミロングのオレンジ色の髪と、ゴーグルの下で活発そうな輝きを放つブルーの瞳が人目を惹く彼女は増加傾向にあるパイロットの損耗を補う為にドイツ空軍が今年始めに緊急公募した女性パイロットに応募し、約4ヶ月の訓練を終えた後に配属部隊である第1駆逐航空団第？飛行隊に着任する為、愛機を駆って第？飛行隊が駐留するサポロジュに到着したのだ。

「ハンナ、着いたわよ」

「はい」

エルザが機内通信で後部席に座る後方銃手兼無線手で同期生のハンナ・シュナイダーに声をかけると、ハンナが穏やかな口調で返答を返して来た。

飛行帽から覗く蜂蜜色のショートヘアとゴーグルの下のブラウンの瞳が人目を惹くハンナは、澄みきった蒼空を見渡すと、のんびりとした口調で言葉を続けた。

「いい天気だね」

「相変わらずね…あんたは…」

ハンナののんびりとした口調を受けたエルザは苦笑を浮かべながら呟いたが、目的地であるサポロジュ近郊の飛行場を確認すると、表情を引き締めながら言葉を続けた。

「降りるわよ、ハンナ」

「了解、現在の所、異常無し」

「了解」

ハンナの言葉を耳にしたエルザは、短く応じながら愛機を飛行場に向けて降下させていった。

ハンナが飛行場の管制官と短いやり取りを行って着陸許可を取り付けると、エルザは愛機を滑走路に着陸させると、地上誘導員の指示に従い第？飛行隊の所属機が翼を休める駐機スペースへと移動させた。

エルザとハンナは地上に降り立つと、飛行帽とゴーグルを外し、手櫛で髪を整えながら駐機スペースに並ぶ第？飛行隊の所属機を見渡した。

「ねえ、エルちゃん…あたし達の配属先、ここで良いんだよねえ？」

「…多分、間違い無い筈だけど…」

ハンナが不安そうに呟くと、エルザは頼り無さ気な言葉を返しつつ駐機スペースを見渡した。

二人が見渡す駐機スペースには、液冷エンジン特有の尖った機首と小ぶりの機体が特徴的な単発戦闘機メッサーシュミットBf-109E-7が並べられ翼を休めていた。

第1駆逐航空団は、双発戦闘爆撃機中心の部隊編成の筈なので眼前に並ぶBf-109E-7の姿はエルザとハンナを不安感を与えたが、その不安を打ち消す様に二人に向かって明るい声かけられた。

「おーい、ハンナ、エルー、到着したんだねー」

「この声は…」

「リーゼ!？」

聞き慣れた声を耳にしたエルザとハンナが後方を振り向くと、ポニーテールに纏めたプラチナ・ブロンドの髪と煌めく翡翠の瞳が印象的な美女、エルザ達の同期生のリーゼ・ブランデンベルガー少尉が笑顔を浮かべて手を振っていた。

「エンジントラブルで着任が遅れるって聞いてたけど、大丈夫だったみたいね…」

エルザはリーゼの言葉を受けると、肩を竦めながら頷きつつ言葉を返す。

「整備班が頑張ってくれたお陰よ、ところでリーゼ、この部隊本当に第1駆逐航空団の第?飛行隊なの?同じ配属命令を受けた貴女がいるんだから間違い無いと思うけど…」

エルザの言葉を受けたリーゼは頷きながら列線を形成するBf-109E-7を見渡したながら言葉を発した。

「第?飛行隊は単発戦闘機主体で編成されているみたいね…」

「じゃあ、リーゼちゃんもBf-109で着任したの?」

「そう言えば途中から別行動になったから貴女達は私の機体を知らないのね…」

リーゼはそう言うのと列線の端の方に駐機する機体を指差した。

「あれが私の受領した機体Bf-109T-2よ…」

リーゼの指差した先には主翼に搭載されたMGFF/M20ミリ機銃の付近で翼が折畳まれたBf-109の姿があった。

「翼の折畳み機構なんてBf-109には無かった筈よ…」

エルザが訝しげな表情で呟くと、リーゼは頷きながら言葉を続けた。

「Bf-109E-4を海軍が建造していた空母用^{クリグス・マリネ}に艦載機型に改修した機体らしいわ…主翼を延長して折畳式に改修してるわ、何の手違いか知らないけど私が受領する事になってたわ…まあ、搭載エンジンはこの部隊のE-7と同じDB-601(DB-601N液

冷1175PS)だから運用に問題は無いみたいだね。」

エルザ達はその言葉に小さく頷くと、リーゼは笑顔を浮かべながら言葉を続けた。

「飛行隊司令の所に案内するわね。」

リーゼはそう言いながら歩き始め、エルザ達もそれに促される様に足を踏み出し、飛行隊司令部を目指した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4693q/>

戦乙女(ワルキューレ)の舞…1942 東部戦線南方戦域

2011年7月1日19時38分発行